

れども食滞ある時は、少食して害なし。

〔徒然草上〕筑紫になにがしの押領使などいふやうなるもの、有けるが、土おほねをよろづにいみじき薬とて、朝ごとにふたつづ、やきて喰ける事、年ひさしくなりぬ、或時館のうちに、人もなかりけるひまをはかりて、敵おそひきたりてかこみせめけるに、館の内に兵二人出きて、命をおします戦ひて、みな追返してけり、いと不思議におぼえて、日比こ、に物し給ふとも、見ぬ人々のかくた、かひし給ふは、いかなる人ぞととひければ、年來たのみてあさなくめしつる土おほねらにさぶらふといひてうせにけり、

〔下學集下飲食〕纖蘿蔔

〔易林本節用集食服〕纖蘿蔔

〔庭訓往來〕御齋之汁者○中蘿蔔、山葵、寒汁等也、菜者纖蘿蔔、

〔倭訓栞前編十三〕せろつぼん 庭訓往來にいふ纖蘿蔔を謬り呼るなり、大根をほそくせんに切たる也。

〔甲子夜話二十二〕寛政庚戌ノ旅行ニ、美濃本庄驛ヲ過グ、其路傍ノ民家ニ賣物アリ、左ニ圖ス○圖此物蘿蔔ニテ製ル、長五六尺、一筋ノ大サ、マガヒ糸ヲ合セタル程ナリ、一把毎ニ四五十筋、上ノ方ヲ束タルモ亦蘿蔔ノ皮ナリ、甚見事ナルモノニテ、其由ヲ問ニ、去年此邊ノ禪寺ニテ始メテツクル、未其栽法ヲ知ル人無シト答エ、

〔毛吹草三山城〕蓮臺野大根 吉田大根 摄津 天満宮前大根 三島江大根勝太シ、雜煮用之
尾張 大根 同干大根 相模 鼠大根鼠ノ手ニ、リト云 秦野大根 近江 志賀山中大根
肥後 久保田野大根

〔和漢三才圖會草十九〕蘿蔔略 中

和名於保根、今用大根二字、○中